

選択必修科目 小児科臨床研修プログラム

このプログラムは、幅広い診療能力を有する臨床医となるために必要な小児科診療を研修することを目的として作成されたものである。小児を診療する際には、医療の基本である疾患を診るのではなく病人を診るという全人的、包括的な診療姿勢が特に強く求められる。

1. 研修施設

獨協医科大学病院

2. 研修期間

1年次の1か月～

3. 指導責任者

吉原重美教授

4. 研修内容

小児および小児科診療の特性を学び、正常小児の成長、発達に関する知識を学び、次の事項について経験し、初歩的な診察処置等を習得する。

1) 小児科診療の特性：

年齢による疾患の特性を学ぶ。

両親又は保護者の観察を十分に引き出すための問診方法を学ぶ。

両親または保護者とのコミュニケーションの重要性を学ぶ。

診察時は理解の乏しい子供に協力を得るため、子供をあやすなどの行為を習得する。

小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。

乳幼児の検査に不可欠な鎮静方法、採血、血管確保などを経験する。

緊急診療、時間外診療を経験する。

2) 小児期の疾患の特性：

成長、発達過程における疾患内容の違いを学ぶ。

先天性疾患の最初の診療は小児期であることを学ぶ。

各種感染症や急性疾患の頻度が成人に比べて高いことを学ぶ。

急速な病状の変化をそれに対する迅速な対応を経験する。

新生児医療は周産期医療としての特殊・専門性が高い領域であることを学ぶ。

5. 研修目標

面接指導法	一般目標 (GIO)
	両親・保護者から診断に必要な情報を的確に聞き取り指導する方法を習得する
	到達目標 (SBO)
	小児に不安を与えないように接することができる 両親・保護者と良好なコミュニケーションを保ち適切な情報を得ることができる 両親・保護者に対して、指導医とともに病状を適切に説明し、指示・指導することができる

基本的診察法	一般目標 (GIO)
	小児疾患の診断と治療に必要な知識を習得する
	到達目標 (SBO)
	小児の正常な身体発育、精神発達、生活状況を理解し、評価できる
	小児の年齢に応じた適切な方法で身体所見をとることができる
	小児の身体計測、検温、血圧測定ができる
	視診により全身状態栄養状態を評価し、所見の有無を判断できる
	乳幼児の口腔内・咽頭の診察ができる
	小児の鼓膜所見を診ることができる
	発疹の所見を述べることができ、鑑別診断ができる
下痢の回数、性状（硬さ、量、粘液・血液・膿の有無）を述べることができる	
重要な腹部所見を述べることができる	
咳嗽の性状（乾性、湿性、犬吠様等）と呼吸困難の有無を説明できる	
痙攣の型、持続時間、意識障害の程度を評価し述べることができる	
髄膜刺激症状の有無を述べることができる	

基本的手技	一般目標 (GIO)
	小児、特に乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を習得する
	到達目標 (SBO)
	指導医・上級医師のもとで採血ができる
	指導医・上級医師のもとで皮下注射ができる
	指導医・上級医師のもとで導尿ができる
指導医・上級医師のもとで輸液、輸血ができる	
指導医・上級医師のもとで浣腸ができる	

	指導医・上級医師のもとで高圧浣腸、注腸ができる 指導医・上級医師のもとで胃洗浄ができる 指導医・上級医師のもとで新生児の臍肉芽の処置ができる 指導医・上級医師のもとで新生児の血管確保ができる 指導医・上級医師のもとで新生児の光線療法の必要性の判断および指示ができる
--	--

文書記録	一般目標 (GIO)
	適切に文書を記録し、管理することができる
	到達目標 (SBO)
	診療記録、診療要約などの医療記録、処方箋、指示箋、診断書、その他の文書の作成、保存ができる

薬物療法	一般目標 (GIO)
	小児に用いる主要な薬剤に関する知識と用量・用法の基本を習得する
	到達目標 (SBO)
	小児の薬用量を理解し、指導医・上級医師のもとで一般薬剤を処方できる

6. 経験が求められる症状・病態・疾患

研修の最大の目的は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある。

1 頻度の高い症状

必修項目

全身倦怠感	嘔声
不眠	胸痛
食欲不振	動悸
体重減少、体重増加	<u>呼吸困難</u>
<u>浮腫</u>	<u>咳・痰</u>
<u>リンパ節腫脹</u>	<u>嘔気・嘔吐</u>
<u>発疹</u>	胸やけ
黄疸	嚥下困難
<u>発熱</u>	<u>腹痛</u>
<u>頭痛</u>	<u>便通異常（下痢、便秘）</u>
めまい	腰痛

失神 けいれん発作 視力障害、視野狭窄 <u>結膜の充血</u> 聴覚障害 鼻出血	関節痛 歩行障害 四肢のしびれ <u>血尿</u> <u>排尿障害</u> （尿失禁・排尿困難） 尿量異常 不安・抑うつ
--	--

2 緊急を要する症状・病態

来院時心肺停止（C P A）、乳幼児突然死症候群（S I D S）
 意識障害（脳炎、脳症、骨髄膜炎、糖尿病性ケトアシドーシス）
 急性呼吸不全（気管支喘息、細気管支炎、クループ症候群）
 急性腹症（急性虫垂炎、腸重積症）
 急性腎不全（重症脱水症など）
 事故（溺水、転落、中毒、熱傷など）
 異物誤飲・誤嚥
 ネグレクト、被虐待児

3 経験が求められる疾患・病態

必修項目

- (B) ①小児けいれん性疾患
 (B) ②小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ）
 ③小児細菌感染症
 (B) ④小児喘息
 ⑤先天性心疾患

C 特定の医療現場の経験

(1) 小児・成育医療

小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。
- 2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- 3) 虐待について説明できる。

必修項目 小児・成育医療の現場を経験すること

